



令和6年2月14日(水)発行

校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: www.kita9.ed.jp/nakashima-e/

TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

○相手の立場に立って考える思いやりのある子ども

○すすんで学び、自ら考え、表現する子ども

○元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

○安全な学校 ○温かい学校

○笑顔があふれる学校

○「中島小大好き」と言える学校

○成長(学習)し続ける学校

○保護者・地域・関係機関と連携する学校

性の健康と権利に関する教育(5・6年生)

福岡県では、福岡県性暴力根絶条例に基づき、性暴力根絶と性暴力被害者支援に関する総合的な教育を行う「福岡県性暴力対策アドバイザー派遣事業」を実施しており、令和4年度からは、公立の全ての小学校(高学年)、中学校及び高等学校に派遣しています。児童生徒が在学中に最低1回は受講できるよう、小学校高学年(5・6年生)は2年、中学生以上は3年サイクルで実施されます。

この教育は、自分も相手も大切にコミュニケーション力を身に付け、社会の中で自他の安全を守って生活するための基本的なスキルを身に付けることを目的としています。その中で、性被害のことや、もし被害にあった場合に助けを求めることの大切さや方法も学びます。

中島小学校でも、アドバイザーの方にお越しいただき、1月22日(金)の5校時に6年生、6校時に5年生で講義をしていただきました。「境界線」は、自分を守る 相手を守る 透明バリアであり、大切にしなければならないことや、「境界線」がピンチのときは味方になってくれる大人に話してみようということなどを学習しました。

中島小学校卒業生です

本校卒業生である篠崎史紀さんは、現在上映中のアニメ映画「窓ぎわのトットちゃん」にて、トットちゃんのお父さん(バイオリニスト)の演奏シーンを担当されています。平成25年、中島小学校に篠崎史紀さんが来校されたときに書いていただいた色紙(しきし)を、職員室前に掲示しています。学校にお越しの際はどうぞご覧ください。

春の訪れを感じます

中島小学校の東門の側(そば)に梅の木があります。今年はとても早く花が咲きました。続いて、桃、桜が順に花を咲かせるでしょう。お子さんと花びらの観察などしてみたいかがでしょうか。春の訪れを感じるとともに、6年生の卒業が近づき、寂しさを感じる今日この頃です。

1月24日から1月30日までは、全国学校給食週間です

我が国における学校給食は、明治22年に始まって以来、各地に広がっていききましたが、戦争の影響などによって中断されました。

戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるとなり、昭和21年6月に米国のLARA(Licensed Agencies for Relief in Asia:アジア救済公認団体)から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開(「学校給食実施の普及奨励について」昭和21年12月11日文部、厚生、農林三省次官通達)されました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と決めました。昭和25年度から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」としました。

子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。

学校給食週間においては、このような学校給食の意義や役割について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めるため、全国で様々な行事が行われます。学校給食週間においては、このような学校給食の意義や役割について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めるため、全国で様々な行事が行われます。(文部科学省抜粋)

中島小学校の取組 1月22日(月)~1月26日(金)

- * 各学級で・・・調理士さんに感謝の気持ちを寄せ書き風に書き、職員室前の廊下に貼る。(給食週間が終わったら、給食委員が調理士さんに渡す。)
- * 給食委員会による給食時間の放送
 - 22日(月) 校長先生の話(給食週間について・給食の思い出)
 - 23日(火) 調理士さんインタビュー①
 - 24日(水) 栄養教諭の先生の話
 - 25日(木) 調理士さんインタビュー②
 - 26日(金) 各学年代表児童の感謝のメッセージ紹介(本人が読みました。)

給食ができるまでには、給食の食材を作ってくれる人、それを運んでくれる人、ごはん・パンなどを作り届けてくれる人、食べ物を調理してくれる調理士さんなど、たくさんの方々が関わってくださっています。そのおかげで、私たちは毎日、元気に過ごすことができます。人は、食べ物を食べないと生きていくことができません。そして、その食べ物は、全て生きています。私たちは、食べ物の命をもらって生きています。給食週間の取組を通して、子どもたちには、毎日の給食に感謝して残さず食べる習慣を身に付けてほしいと思います。